

小学校英語のよくある質問:

GenkiEnglish.com

英語は脳手術でも量子力学でもありません。とても簡単ですよ！多くの小学校の先生たちが同じ疑問や問題点をもっていますので、ここで一番よくある質問とお勧めの解決法を紹介しません。解決できない問題ははありませんよ。



リチャード グレアン

“英語教育に旋風を
まきおこせ!”

— NHK テレビ

“指導方法を具体的に
紹介”

— 日本教育新聞

タイ王国の政府は
タイの全ての小学
校にリチャードの教
材を入れました。

元氣イングリッシュ
は日本で生まれまし
たが、現在、インド・
スウェーデン・香港な
ど 100 カ国以上で使
われています!

全国版新聞、NHK、
フジテレビにも紹介
されました。

☆自分は英語が話せない、どうやって教えればいいですか？

皆が英語をペラペラなわけではないので、心配しないで。新しい考え方にしましょう。英語を教える時に先生は上から子どもに教えるのではなく、先生も、子どもも、皆はゼロから前向きに一緒に頑張りましょう、が正しい方法です！自分の中学校、高校の英語の経験を忘れ、白い紙から始めましょう。『英語の間違いをしたら大変』の代わりに、『失敗しながら、上手になろう！』の気持で頑張りましょう。元氣イングリッシュ第1ルールは:

『できる、できる、できる』と思えば、できる！

☆何の英語を教えればいいのか分かりません。

『形』や『曜日』や先生が教えたものではなくて、子どもが言いたいものにしましょう。ALT が日本の小学校に入ると、先生たちは恥ずかしがり、遠慮しますが、子どもはALTの方へすぐ行って、たくさん、たくさんの質問をします。コミュニケーションの熱心さはありますよね！僕はこの日本語の質問を記録して、カッコいい英語に翻訳して、教えやすい45分のレッスンプランそして、GenkiEnglish のカリキュラムを作りました。子どもが言いたいものですので、授業はすぐスムーズになります。皆が使えるように、無料で GenkiEnglish.net/curriculumj.htm にアップしました。先生たちは大変忙しいので、最初からカリキュラムを適当に作るより、すでにあるものを上手に使いましょう。

☆自分の英語の発音に自信がないです。

一番よくある質問です！どうして英語を始めるのが中学校ではなくて、小学校がいいかというのは、5年生までで正しい英語を聞くと、完璧に繰り返すことができます。でも変なカタカナ発音を聞くとそれも完璧に真似します！でも最初の時に完璧な発音を聞かせたら大丈夫です。日本の小学校はお金持ちですので(タイの学校を覚えていますか?)、パソコン、CD、DVDなどを上手に使いましょう。その後先生は変な発音を出してもかまいません。子どもは間違えていると分かりますが、先生のやる気が一番大切です！

☆ゲームや歌を知りたいです

僕の一番役に立つ歌は販売している教材になりますが、ゲームとレッスンプランは無料でGenkiEnglish.comのホームページにあります。英語版と日本語版、両方ありますので、両方を印刷するとALTとのレッスンプランニングは簡単になります！ゲームは写真付きですので、理解しやすいです。GenkiEnglishの第2ルールは:負けるの意味は負けるではなくて、

負けるの本当の意味は『もう一回!』

☆文字はどうしたらいいでしょうか？

どの言葉でも、聞く・話すのが先です。これが大体できてから、アルファベットの代わりに『フォニクス』を教えたなら、英語の80%が読めるそうです。詳しくはここ GenkiEnglish.net/phonicsj.htm

☆6年生はどうすればいいでしょうか？

毎年、特に夏休みの後に、今まで完璧な、元氣な、すばらしい御生徒様は中学生っぽい、英語をやりたくない6年生になりますよね。ほとんどの場合ゲームや歌は無理ですので、僕のお勧めは外国の子どもとプロジェクトの交換です。簡単にできますよ、詳しくはここ GenkiEnglish.net/projectsj.htm。このようなプロジェクトをすると、GenkiEnglish第3ルールを簡単に理解できます！

他の質問、記事、アドバイスとワークショップのビデオはGenkiEnglish.comのホームページにありますので、ぜひご覧ください！もしくは、夏休みの研修会にぜひ誘ってください！

Be genki, リチャード

リチャード・グレアンは日本の小学校英語や国際理解教育のトップの専門家です。3年間、愛媛県の小学校で英語と国際理解教育を教えながら小学校にふさわしい独特な教え方を開発しました。2000年からGenkiEnglish.comの形で文部科学省やいろいろな地方の教育委員会が主催している研究会で小学校先生の指導ワークショップをしたり、本、雑誌や新聞の執筆、インターネットで毎日10,000人の先生を手伝ったりしています。現在は北海道から沖縄、日本の多くの小学校が“できる、できる、できる”の気持ちでGenkiEnglish.comの教え方を使って英語を教えています。